



十勝管内特別支援学校のコーディネーターで、皆様に様々な情報を発信していこうと考え、約2ヶ月に1度、コラムを掲載することになりました。第1回は、7月31日に開催された、「とかねっと夏季研修会」の感想をお届けします。

R5 年度 とかねっと夏季研修会感想

今年は、数年ぶりに多くの参加者が集い、対面の研修を行うことができました。「不登校」「進路指導」「障がい理解と支援」「卒業後の生活」の4つの分科会に分かれ、各校の現状や取り組みについて語り合いました。どの分科会でも活発に意見交換がなされるなど、日々児童生徒の指導・支援にあたられている先生方同士の交流は様々な発見や気づきがありました。

私が参加した「不登校」の分科会では、登校が難しいお子さんへの支援だけではなく、ご家庭への働き掛け、信頼関係の構築が大切だというお話があり、そこから話題が広がっていききました。中でも印象的だったことは、学校だけではなく、お子さんやご家庭を取り巻く福祉も含めた地域資源（事業所、療育センター、要保護児童対策地域協議会、その他関係機関）と連携していくということです。また、決して担任のみが関わるのではなく、校内支援体制を充実させ、チームで取り組む必要があるということです。

お子さん自身が、わずかでも学校に目が向くようになるきっかけを模索していく中で、今の支援の仕方はどうか、働き掛けの時期は適切か等、多面的・多角的な視点からお子さんを見つめるためにも、指導・支援をする私たち職員のチームワークが必要だと改めて感じました。

そのお子さんへの確かなアセスメントが全ての基本であることはもちろんです。この点でも、私たち職員の専門性や経験を活かしていかなければならない場面だと言えると思います。

助言者の先生や参加された先生のご発言の中にもありましたが、お子さんやご家庭、置かれている状況の適切な見取り、個別の教育支援計画の丁寧な作成を、今一度十分に行うように意識することは、お子さんの発達に合わせた支援の場へ引き継いでいく大切な取り組みの一つなのだとすることを改めて確認しました。

最後になりますが、お子さんへの十分な支援のためには、私たちの連携が必要であり、こうして様々な考えをおもちの先生方が集い、意見を交わすことのできる「とかねっと」の研修会や、つながりを、今後も私たちの住む十勝で十分に機能し継続させていかなければならないと考えました。

次回は、聞こえの「補助システム」について情報をお届けする予定です。

（文責 帯広聾学校 コーディネーター）